

第34回

バソプレシン・ オキシトシン研究会 プログラム・抄録集

日 時 令和7年1月11日(土) 13:00~17:35

会 場 東京大学 山上会館

当番世話人 有馬 寛

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

事務局 第34回バソプレシン・オキシトシン研究会事務局 有馬 寛、岩間信太郎

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

TEL :052-744-2194

FAX:052-744-2212

E-mail: 34avpot@gmail.com

第 34 回 バソプレシン・オキシトシン研究会 日程 令和 7 年 1 月 11 日(土)

[1] 開会の辞	13:00 ~ 13:05	当番世話人/代表世話人	有馬 寛
[2] 一般演題 I	13:05 ~ 13:45	座長	上田陽一
[3] 一般演題 II	13:45 ~ 14:25	座長	内田信一
[4] ミニレクチャー	14:25 ~ 14:55	司会	有馬 寛
講師：森 建文 (共催：大塚製薬株式会社)			
[5] 休憩	14:55 ~ 15:15		
[6] 一般演題 III	15:15 ~ 15:55	座長	槇田紀子
[7] 一般演題 IV	15:55 ~ 16:35	座長	兵藤 晋
[8] 特別講演	16:35 ~ 17:25	司会	尾仲達史
講師：菊水健史 (共催：ヤマサ醤油株式会社)			
[9] 表彰式	17:25 ~ 17:30		
[10] 閉会の辞	17:30 ~ 17:35	当番世話人/代表世話人	有馬 寛

- 一般演題は口演時間 8 分、討論 4 分とします。
- 発表は、全て PC プレゼンテーションとします。
- 演者は、研究会開始 30 分前に必ず PC 試写を行い、正しく動作するかをご確認ください。ラップトップ PC をお持ち込みの方も必ず受付、試写をお願いします。
- 世話人会を 12 時 00 分より開催します。

第 34 回 バソプレシン・オキシトシン研究会

当番世話人/代表世話人：

有馬 寛 名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

世話人：内田信一 東京科学大学大学院医歯学総合研究科 腎臓内科

上田陽一 産業医科大学医学部 第一生理学

輿水崇鏡 自治医科大学医学部薬理学講座 分子薬理学部門

兵藤 晋 東京大学大気海洋研究所

森 建文 東北医科薬科大学 医学部 内科学第三（腎臓内分泌内科）教室

尾仲達史 自治医科大学医学部生理学講座 神経脳生理学部門

槇田紀子 東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科

菊水健史 麻布大学 獣医学部 動物応用科学科

主催：バソプレシン・オキシトシン研究会

会場案内

名 称: 東京大学山上会館

所在地: 〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

(東京大学本郷キャンパス構内)

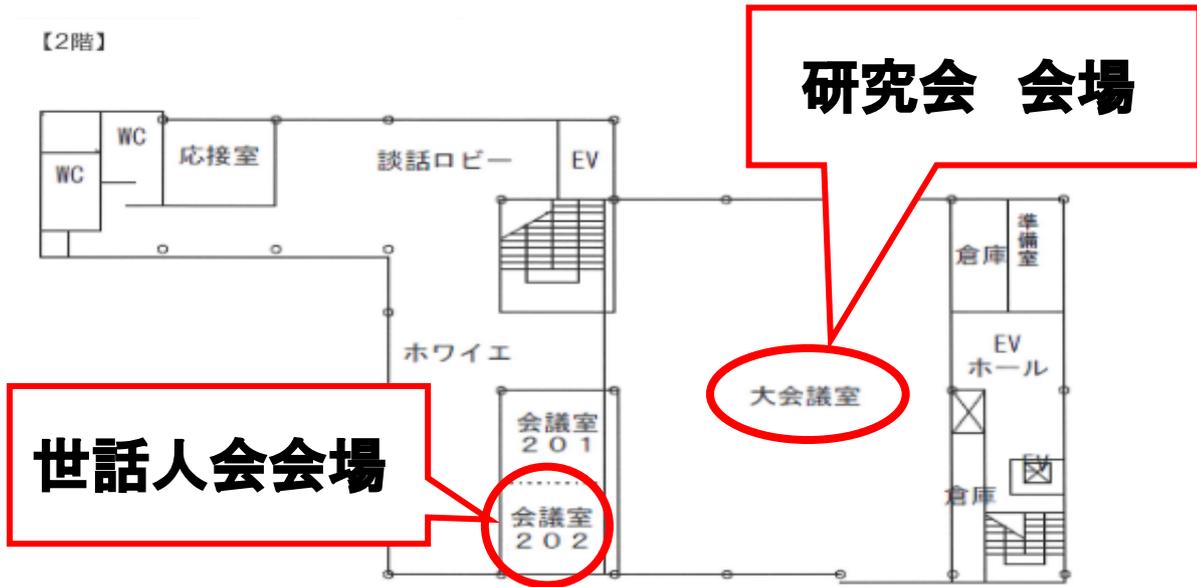
最寄り駅: 東京メトロ丸の内線・都営地下鉄大江戸線

「本郷三丁目」駅から徒歩で約 15 分

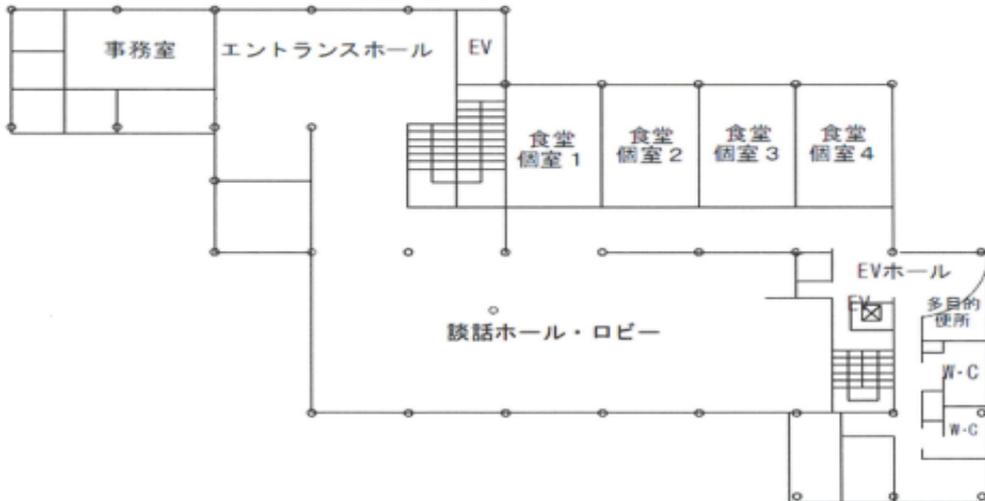


フロアマップ

【2階】



【1階】



プログラム

[1] 開会の辞 13:00 ~ 13:05 当番世話人/代表世話人 有馬 寛

[2] 一般演題 I 13:05 ~ 13:45 座長 上田 陽一

演題 I-1 視床下部における2つの神経核（室傍核と視索上核）を構成するバソプレシン・オキシトシン細胞の領域化のメカニズム

齋藤 加奈子¹⁾、亀山 俊樹¹⁾、小谷 侑¹⁾、河田 美穂¹⁾、中島 昭¹⁾、長崎 弘¹⁾

¹⁾藤田医科大学医学部 生理学 I

演題 I-2 新規小胞体ストレス改善薬 IBT30 は家族性中枢性尿崩症モデルマウスの多尿を軽減する

宮田 崇¹⁾、近藤 祐市¹⁾、芦田 涼成¹⁾、内藤 聡¹⁾、川口 頌平¹⁾、萩原 大輔¹⁾、
宮内浩²⁾、親泊 政一³⁾、有馬 寛¹⁾

¹⁾ 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科

²⁾ 名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部

³⁾ 徳島大学 先端酵素学研究所生体機能学分野

演題 I-3 English presentation

二次性副腎不全で認められる水利尿不全において視床下部室傍核 CRF ニューロンに共発現するバソプレシン (AVP) が有する病態生理学的意義

山形 聡¹⁾²⁾、Ashraf H Talukder²⁾、村澤 真吾³⁾、新岡 加奈子³⁾、熊谷 直哉⁴⁾、高木 麻緒⁴⁾、川村 名子⁵⁾、夏目 里恵⁵⁾、阿部 学⁵⁾、内田 克哉²⁾、佐藤 達也²⁾、黒瀬 顕⁴⁾、蔭山 和則¹⁾、大門 眞³⁾、崎村 建司⁵⁾、井樋 慶一²⁾⁶⁾

¹⁾東北医科薬科大学 腎臓内分泌内科

²⁾東北大院情報科学研究科 情報生物学

³⁾弘前大院医学研究科 内分泌代謝内科学

⁴⁾弘前大院医学研究科 病理診断学

⁵⁾新潟大学脳研究所 モデル動物開発分野

⁶⁾東北福祉大学 保健看護学科

[3] 一般演題 II

13 : 45 ~ 14 : 25

座長 内田 信一

演題 II-1 先天性腎性尿崩症に対するデスマプレシンの使用実態 有効性・安全性に関する全国調査

池側研人¹⁾²⁾, 藤本正伸³⁾, 青山幸平⁴⁾, 中山尋文⁵⁾, 窪田拓生⁵⁾, 長崎啓祐⁶⁾, 永沼節子⁷⁾, 小野真⁸⁾, 樋口真司⁹⁾, 水野晴夫¹⁰⁾, 神崎晋¹¹⁾, 森川和彦¹²⁾, 天野直子¹⁾¹²⁾, 長谷川行洋¹⁾¹³⁾

¹⁾東京都立小児総合医療センター内分泌代謝科

²⁾東京都立小児総合医療センター 臨床研究支援センター

³⁾鳥取大学医学部周産期・小児医学分野

⁴⁾名古屋市立大学大学院 医学研究科新生児・小児医学分野

⁵⁾大阪大学大学院医学系研究科小児科学

⁶⁾長野県立こども病院内分泌代謝科

⁷⁾熊本労災病院小児科

⁸⁾千葉市立海浜病院小児科

⁹⁾大阪市立総合 医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科

¹⁰⁾藤田医科大学医学部小児科学

¹¹⁾旭川荘療育・医療センター

¹²⁾慶応義塾大学医学部小児科学教室

¹³⁾多摩北部医療センター小児科

演題 II-2 過剰な習慣性飲水により低 Na 血症をきたした先天性腎性尿崩症の 2 症例

堀越 博文¹⁾、田口 真帆¹⁾、間中 勝則¹⁾、佐藤 潤一郎¹⁾、麻生 芽亜²⁾、柴垣 有吾²⁾、槇田 紀子¹⁾

¹⁾ 東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科

²⁾ 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科

演題 II-3 レーザーマイクロダイセクションによりサメ・エイ類の腎機能を明らかにする

鈴木 哉汰¹⁾、高木 互¹⁾、油谷 直孝¹⁾、下山 紘也¹⁾、兵藤 晋¹⁾

¹⁾東京大学大気海洋研究所 生理学グループ

[4] ミニレクチャー

14 : 25 ~ 14 : 55

司会 有馬 寛

(共催：大塚製薬株式会社)

腎臓・内分泌臨床に対する V2 受容体拮抗薬の貢献

森 建文

東北医科薬科大学医学部 腎臓内分泌内科

[5] 休憩 14:55 ~ 15:15

[6] 一般演題Ⅲ 15:15 ~ 15:55 座長 槇田 紀子

演題Ⅲ-1 LRBA は膜輸送を統括するハブ分子である
長岡 可楠子¹⁾、安藤 史顕¹⁾、原 悠¹⁾、藤木 珠美¹⁾、萬代 新太郎¹⁾、森 雄太郎¹⁾、
須佐 紘一¹⁾、森 崇寧¹⁾、蘇原 映誠¹⁾、阿部 陽一郎²⁾、安井 正人²⁾、内田 信一¹⁾
¹⁾東京科学大学 医学部 腎臓内科
²⁾慶應義塾大学 医学部 薬理学教室

演題Ⅲ-2 負荷試験に依らないバソプレシン分泌低下症認定基準の提案に向けた後方視的検討
宗永 健志¹⁾ 天野 直子¹⁾池側 研人¹⁾ 長谷川 行洋¹⁾²⁾
¹⁾東京都立小児総合医療センター 内分泌・代謝科
²⁾多摩北部医療センター 小児科

演題Ⅲ-3 小児期バソプレシン分泌低下症診断での水制限下の尿浸透圧測定の有用性再考
長谷川 行洋¹⁾²⁾ 宗永 健志¹⁾ 池側 研人¹⁾天野 直子¹⁾
¹⁾東京都立小児総合医療センター 内分泌・代謝科
²⁾多摩北部医療センター 小児科

[7] 一般演題Ⅳ 15:55 ~ 16:35 座長 兵藤 晋

演題Ⅳ-1 English presentation
腸ホルモン Glucagon-like peptide-1 の迷走感覚神経刺激は 視床下部室傍核バソプレ
シン神経の活性化を介して嫌悪無しに摂食量を低減させる
増田 雄太¹⁾、北野 里佳¹⁾、岩崎 有作¹⁾
¹⁾京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 動物機能学研究室

演題Ⅳ-2 高ナトリウム濃度環境におけるミクログリアの機能変化についての検討
藤沢 治樹¹⁾、布施 裯智穂¹⁾、鈴木 敦詞¹⁾、梶村 益久¹⁾
¹⁾藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学

演題IV-3 改変型バソプレシン受容体を用いた血漿中バソプレシン濃度測定法の構築

土居 耕介¹⁾²⁾、川上 耕季¹⁾、生田 達也¹⁾、井上 飛鳥¹⁾³⁾

¹⁾東北大学大学院 薬学研究科

²⁾ヤマサ醤油株式会社 診断薬事業部

³⁾京都大学大学院 薬学研究科

[8] 特別講演 16:35 ~ 17:25

司会 尾仲 達史

(共催：ヤマサ醤油株式会社)

オキシトシンの社会機能

菊水 健史

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科

[9] 表彰式 17:25 ~ 17:30

[10] 閉会の辞 17:30 ~ 17:35

当番世話人/代表世話人 有馬 寛

バソプレシン・オキシトシン研究会会則

令和5年1月10日改訂
令和4年1月12日改訂
平成28年7月1日改訂
平成20年1月12日改訂
平成17年12月9日改訂
平成16年12月7日改訂
平成15年7月1日改訂

第1条 (名称)

本研究会は、「バソプレシン・オキシトシン研究会」と称する（以下「本研究会」という。）

第2条 (目的)

バソプレシンとオキシトシンに関する基礎的・臨床的研究の発展に寄与することを目的とする。

第3条 (事業)

本研究会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 本研究会学術集会の開催（年1回）
2. 本研究会総会の開催（年1回）
3. その他本研究会の目的を達成するための必要な事業

第4条 (会員)

本研究会の会員資格者は、バソプレシンとオキシトシンに関する基礎及び臨床研究を行っている者及びその指導に当たる者とする。

第5条 (会費)

1. 本研究会の会員は所属、住所を登録し、年会費を納めるものとする。
2. 年会費の額は役員会において決定する。

第6条 (役員)

1. 本研究会には、次の役員を置く。世話人：6名程度、監事：1名
 - 1) 世話人のうちから、「代表世話人」を1名選出し、世話人会・役員会の運営を総括する。
 - 2) 世話人のうちから、任期1年間の「当番世話人」を1名選出し、学術集会長として学術集会の企画・開催・運営及びプログラム・抄録集の作成を担当する。
 1. 役員は世話人会で推薦し、役員会にて決定し、総会で承認を得る。
 2. 役員任期は2年とし、再任は妨げない。但し満65歳になった場合、その年

度末で退任となり、以降は再任されない。

第7条（顧問）

1. 本研究会には顧問を置く。
2. 当該顧問は、世話人会歴任者とする。
3. 顧問は世話人会の諮問のあった事項について助言する。

第8条（役員職務）

1. 代表世話人は、学術集会の開催毎に世話人会を開催し、会計報告、役員改選、その他本研究会の運営に関わる事項について決議する。
2. 当番世話人は、学術集会の開催場所・日時・演題等の選出について、世話人会を開催し、ここに提案し、決議する。また、当番世話人は、プログラム・抄録集の監修を行う。
3. 監事は、本研究会の会計、資産、会務を監査する。

第9条（学術集会開催場所）

学術集会の開催場所は、原則として東京都内とする。また、開催時期は、原則として1月とする。

第10条（学術集会支給規定集）

学術集会開催における、謝礼、交通費、宿泊費等の費用の支給については、役員会において決定し、施行細則に記載する。

第11条（会計）

1. 本研究会の会計年度は、学術集会の開催日に始まり、次回開催前日に終わる。
2. 本研究会の経費は本研究会会員の年会費、企業協賛金を以ってこれに当てる。

第12条（事務局）

本研究会の事務局は、代表世話人の所属教室に設置する。

第13条（会則の変更）

本研究会会則の変更については、役員会の議を経た後、総会において承認を得ることとする。

施行細則

第1条（年会費）

本研究会会員の年会費は500円とする（ただし、学生は無料）。また、学術集会参加費は1500円とする（ただし、学生は1000円）。会費収益金は、本会の運営費に充当する。

第2条（支給規定）

学術集会開催における各経費の支給基準を次の各号のとおり規定する。

1. 交通費の支給対象者は、招待講演者、役員とする。その支給金額は、出発地から会場最寄り駅までの新幹線、航空機の旅費についてのみ実費とする。なお、グリーン料金・Jクラス/スーパーシート等の料金は支給しないものとする。また、東京都が出发地である場合には旅費は支給しないものとする。
2. 宿泊費の支給対象者は、招待講演者のみとする。

第3条（研究奨励賞）

学術集会において優れた研究発表に対し研究奨励賞を2件、優れた症例発表に対し優秀症例発表賞1件、優れた英語発表に対しBest English Presentation賞を1件選考する（件数はそれぞれ原則とする）。選考方法は、学術集会参加世話人全員の採点による。同点者が出た場合は、過去の受賞歴の無いもの、卒業年次が若い者の優先順位により選考する。さらに、決定し得ない場合は、採点を行った世話人全員の参加の下に協議を行い決定する。なお、賞金は、1件5万円とする。

第4条（細則の変更）

本研究会の細則の変更については、役員会の議を経た後、総会において承認を得ることとする。

以上

役員名簿

代表世話人

有馬 寛 名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

世話人

内田 信一 東京科学大学大学院医歯学総合研究科 腎臓内科
上田 陽一 産業医科大学医学部 第一生理学
奥水 崇鏡 自治医科大学医学部薬理学講座 分子薬理学部門
兵藤 晋 東京大学大気海洋研究所
森 建文 東北医科薬科大学医学部 腎臓内分泌内科
尾仲 達史 自治医科大学医学部生理学講座 神経脳生理学部門
槇田 紀子 東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科
菊水 健史 麻布大学 獣医学部 動物応用科学科

顧問

黒川 清
猿田 享男
斎藤 寿一
山下 博
佐々木 成
根東 義明
石川 三衛
大磯 ユタカ
林 松彦
岩崎 泰正

Lilly

世界中の人々の
より豊かな人生のため、
革新的医薬品に
思いやりを込めて



日本イーライリリーは製薬会社として、
人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、
がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、
成長障害、疼痛などの領域で、日本の医療に貢献しています。

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

経口血糖降下薬で治療中の2型糖尿病のある方へ 更なる改善を目指して

オゼンピック®と より良い血糖マネジメントへの一歩を

2型糖尿病治療剤 持続性GLP-1受容体作動薬

薬価基準収載

オゼンピック® 皮下注2mg

新薬 処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)
セマグルチド(遺伝子組換え)

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者[インスリン製剤による速やかな治療が必須となるので、本剤を投与すべきでない。]
- 2.3 重症感染症、手術等の緊急の場合[インスリン製剤による血糖管理が望まれるので、本剤の投与は適さない。]

4. 効能又は効果

2型糖尿病

5. 効能又は効果に関連する注意

本剤の適用は、あらかじめ糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分に行ううえで効果が不十分な場合に限り考慮すること。

6. 用法及び用量

通常、成人には、セマグルチド(遺伝子組換え)として週1回0.5mgを維持用量とし、皮下注射する。ただし、週1回0.25mgから開始し、4週間投与した後、週1回0.5mgに増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週1回0.5mgを4週間以上投与しても効果が不十分な場合には、週1回1.0mgまで増量することができる。

7. 用法及び用量に関連する注意

- 7.1 本剤は週1回投与する薬剤であり、同一曜日に投与させること。
- 7.2 投与を忘れた場合は、次回投与までの期間が2日間(48時間)以上であれば、気づいた時点で直ちに投与し、その後はあらかじめ定めた曜日に投与すること。次回投与までの期間が2日間(48時間)未満であれば投与せず、次のあらかじめ定めた曜日に投与すること。なお、週1回投与の定めた曜日を変更する必要がある場合は、前回投与から少なくとも2日間(48時間)以上間隔を空けること。

8. 重要な基本的注意

- 8.1 本剤はインスリンの代替薬ではない。本剤の投与に際しては、患者のインスリン依存状態を確認し、投与の可否を判断すること。インスリン依存状態の患者で、インスリンからGLP-1受容体作動薬に切り替え、急激な高血糖及び糖尿病性ケトアシドーシスが発現した症例が報告されている。
- 8.2 投与する場合には、血糖、尿糖を定期的に検査し、薬剤の効果を確かめ、3~4か月間投与して効果が不十分な場合には、速やかに他の治療薬への切り替えを行うこと。
- 8.3 本剤は持続性製剤であり、本剤中止後も効果が持続する可能性があるため、血糖値の変動や副作用予防、副作用発現時の処置について十分留意すること。[16.1参照]
- 8.4 本剤の使用にあたっては、患者に対し、低血糖症及びその対処方法について十分説明すること。[9.1.3、11.1.1参照]
- 8.5 低血糖症を引き起こすことがあるので、高所作業、自動車の運転等に従事している患者に投与するときには注意すること。[11.1.1参照]
- 8.6 急激な血糖コントロールの改善に伴い、糖尿病網膜症の顕在化又は増悪があらわれることがあるので、注意すること。
- 8.7 急性肺炎の初期症状(嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等)があらわれた場合は、使用を中止し、速やかに医師の診断を受けるよう指導すること。[9.1.1、11.1.2参照]
- 8.8 胃腸障害が発現した場合、急性肺炎の可能性を考慮し、必要に応じて画像検査等による原因精査を考慮する等、慎重に対応すること。[9.1.1、11.1.2参照]
- 8.9 下痢、嘔吐から脱水を続発し、急性腎障害に至るおそれがあるので、患者の状態に注意すること。
- 8.10 本剤投与中は、甲状腺関連の症候の有無を確認し、異常が認められた場合には、専門医を受診するよう指導すること。[15.2参照]
- 8.11 胆石症、胆嚢炎、胆管炎又は胆汁うっ滞性黄疸が発現するおそれがあるので、腹痛等の腹部症状がみられた場合には、必要に応じて画像検査等による原因精査を考慮するなど、適切に対応すること。[11.1.3参照]
- 8.12 本剤の自己注射にあたっては、以下の点に留意すること。
・投与方法について十分な教育訓練を実施したのち、患者自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下で実施すること。
・全ての器具の安全な廃棄方法について指導を徹底すること。
・添付されている取扱説明書を必ず読むよう指導すること。
- 8.13 本剤はセマグルチド(遺伝子組換え)を含有しているため、ウゴビー等他のセマグルチド(遺伝子組換え)含有製剤と併用しないこと。

- 8.14 本剤とDPP-4阻害剤はいずれもGLP-1受容体を介した血糖降下作用を有している。両剤を併用した際の臨床試験成績はなく、有効性及び安全性は確認されていない。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

- 9.1 合併症・既往歴等のある患者
- 9.1.1 腎炎の既往歴のある患者
[8.7、8.8、11.1.2参照]
- 9.1.2 重度胃不全麻痺等、重度の胃腸障害のある患者
十分な使用経験がなく、胃腸障害の症状が悪化するおそれがある。
- 9.1.3 低血糖を起こすおそれがある以下の患者又は状態
・脳下垂体機能不全又は副腎機能不全
・栄養不良状態、筋力低下、不規則な食事摂取、食事摂取量の不足又は衰弱状態
・激しい筋肉運動
・過度のアルコール摂取者
[8.4、11.1.1参照]
- 9.4 生殖能を有する者
2か月以内に妊娠を予定する女性には本剤を投与せず、インスリンを使用すること。[9.5参照]
- 9.5 妊婦
妊婦、妊娠している可能性のある女性には本剤を投与せず、インスリンを使用すること。動物試験において、臨床用量に相当する又は下回る用量(最大臨床用量でのAUC比較においてラットで約0.3倍、ウサギで約0.3倍、サルで約2.6~4.1倍)で、胎児毒性(ラット: 胚生存率の減少、胚発育の抑制、骨格及び血管異常の発生頻度増加、ウサギ: 早期妊娠損失、骨格異常及び内臓異常の発生頻度増加、サル: 早期妊娠損失、外表面異常及び骨格異常の発生頻度増加)が認められている。これらの所見は母動物の体重減少を伴うものであった。[9.4参照]
- 9.6 授乳婦
治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。ラットで乳汁中への移行が報告されている。ヒトでの乳汁移行に関するデータ及びヒトの哺乳中の児への影響に関するデータはない。
- 9.7 小児等
小児等を対象とした臨床試験は実施していない。
- 9.8 高齢者
患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。一般に生理機能が低下していることが多い。[16.6.3参照]

10. 相互作用

10.2 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等; 糖尿病薬 ビグアナイド系薬剤、スルホニル尿素剤、速効型インスリン分泌促進剤、α-グルコシダーゼ阻害剤、テアゾリジン系薬剤、DPP-4阻害剤、SGLT2阻害剤、インスリン製剤 等[11.1.1参照]

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

- 11.1.1 低血糖(頻度不明)
脱力感、倦怠感、高度の空腹感、冷汗、顔面蒼白、動悸、振戦、頭痛、めまい、嘔気、視覚異常等の低血糖症状があらわれることがある。また、インスリン製剤又はスルホニル尿素剤との併用時に重篤な低血糖症状があらわれ意識消失を来す例も報告されている。低血糖症状が認められた場合には、糖質を含む食品を摂取するなど適切な処置を行うこと。ただし、α-グルコシダーゼ阻害剤との併用時はブドウ糖を投与すること。また、患者の状態に応じて、本剤あるいは併用している糖尿病薬を減量するなど適切な処置を行うこと。[8.4、8.5、9.1.3、10.2、17.1.1-17.1.5参照]
- 11.1.2 急性肺炎(頻度不明)
嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、肺炎と診断された場合は、再投与は行わないこと。[8.7、8.8、9.1.1参照][8.11参照]
- 11.1.3 胆嚢炎、胆管炎、胆汁うっ滞性黄疸(いずれも頻度不明)

11.2 その他の副作用(1%以上)

食欲減退、悪心、下痢、便秘、嘔吐、リパーゼ増加、頭痛、腹部不快感、消化不良、腹部膨満、上腹部痛、腹痛、おくび、アミラーゼ増加、体重減少

21. 承認条件

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

■ その他の注意事項等情報等については製品電子添文をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)

ノボ ルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1

www.novonordisk.co.jp

JP24OZM00021
(2024年2月作成)



謝辞

今回の開催にあたり、以下の方々及び企業・団体より多大なご支援を賜りました。
ここに御芳名を記し、厚く御礼申し上げます。

共催セミナー

ヤマサ醤油株式会社
大塚製薬株式会社

広告

日本イーライリリー株式会社
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

第34回 バソプレシン・オキシトシン研究会 プログラム・抄録集

発行：令和6年12月23日

発行者：第34回 バソプレシン・オキシトシン研究会

当番世話人：有馬 寛

事務局：名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

〒466-8550

愛知県名古屋市昭和区鶴舞町6-5番地

TEL:052-744-2194、FAX: 052-744-2212

E-mail: 34avpot@gmail.com

主催：バソプレシン・オキシトシン研究会
